

お知らせ

- 次回活動日；5月20日（日）集合：9時40分第一駐車場、主な活動メニュー：マダケ林防護ネット、動物・食害調査&食害対策検討、植物調査、野鳥調査などの班活動。
- 今年度の定例活動日；別紙活動計画〔定例活動日〕のとおり。ただし活動内容は状況に応じて変更します。
- 年会費納入；年会費1,000円、未納の方は5月又は6月活動日に納入下さい。

活動の記録

4月22日（日曜日）曇 参加会員11名

○ミツバツツジフェスティバル参加；清和地区で毎年この時期に実施されているミツバツツジフェスティバルに総会前に全員で参加した。会場のオートキャンプ場周辺には、10年前に市民参加で3万本余が植栽されており、人の背を超える大きさになっている。残念ながら満開には1週間ほど早かったが、個体ごとに微妙に異なる鮮やかな赤紫色の色合いを楽しんだ。また記念植樹にも参加した人は、固い土壌に苦勞しながらマイミツバツツジを植え込んだ。新旧両市長、市議、県・市の幹部、植物の藤平（とうへい）・吉原両先生、観光協会関係者などとも情報交換を行うことができ、地域との関係者と顔の見える関係を築き、地域との交流活性化の大きな1歩になったものと思われる。



新旧市長や藤平先生、君津の方々との記念写真



マイミツバツツジ植樹

○H19年度定時総会

- ・出席者数11名に委任状12名を加え計23名。会員数41名に対する定足数14名を充足して、総会成立。
- ・平成18年度活動報告、会計報告、会計監査報告を承認、平成19年度活動計画、予算計画を提案討議。今年度は千葉県と当会間で5年前に締結した「千年の森づくり活動協定」最終年度に当たるため「協定」終了後も協定を更新して次年度以降の活動継続を前提としていること。このため5年間の森づくりや活動の成果を総括し、協定更新後の森づくりや活動の方向付けを行い、2月の報告・検討会までに整理すること。また県当局と協定更新について協議し更新手続きを行うこと」という付帯条件を付して平成19年度活動計画案（議案書1）を承認。
- ・役員選出 以下の役員を選任（代表）坂本彌（副代表）新井孝男、真鍋昌義、（幹事）伊藤道男、村野忠夫、久我哲也。（監事）高塚肇子。高塚監事は新任、その他は再任。長村副代表、鈴木・久我則子幹事は退任されました、永い間お世話になり有難うございました。
- ・なお班長は次の通り。植物班：伊藤、動物班：福島、キノコ班：村野、栽培キノコ班：久我、木工班：長村、野鳥班：高橋、写真班：今泉、安全委員長：坂本。



新緑の森で熱心な討議

○シイタケ収穫と昼食；長期の入林規制で収穫しなかったためシイタケは巨大化、一部は水傷み・変色、合計約 4.5^{kg}、広場脇 0 4 年植えも遮光部分に少々。昼食時に巨大・厚肉のアツアツシイタケをロー杯に、残りはお土産。

○ 森の周遊観察；森を一周し植物や食害、動物のフィールドサイン、倒木や水辺の模様など全員で観察。（福島氏の豊英島散策記、今泉氏のトビ観察記をご覧ください）トビは巣を離れず抱卵中。ほこら山中腹に小型のギンラン 1 株、5 年ぶりの発見、手厚く保護し絶滅を回避したい。吊橋の復旧と活動再開を感謝し、祠に手を合わせる。ホテイ竹林常緑高木に野鳥の巣トビ？発見。またこの日は島にやたらと蛇が多い。湖に面する南西斜面の崖には満開のミツバツツジ、やはり日照か。



5 年ぶり再発見のギンラン (C)



エビネ



マルバアオダモ

芽吹き季節の豊英島散策

福島成樹

総会を終え、今まさに芽吹き季節を迎えた島を参加者全員で散策しました。空を仰げば、さまざまな木々の芽吹きが少しずつ違った色合いで私たちの目を楽しませてくれ、地面に目を落とせば、落ち葉で覆われていた地面からたくさんの芽生えが顔を出し、生命の躍動感を感じさせてくれます。久しぶりに訪れた豊英島は命の活気に満ちていました。木本ではコバノガマズミやマルバアオダモ、ウリカエデが花を着け、ランの仲間ではシュンランの時期が終わり、エビネが花を開き始めました。ホコラ山では新井さんが花を着けた小さなギンランを見つけました。これは大ヒットでしたね～！

地面をよく見ると…、ありましたよ、春先のシカのフン。俵型のころころしたものではなく、それがくっつき合って固まりになったフンです。そう思ってよく見ると食痕もあちこちにあります。今まではわずかに残った緑のシュンランやスゲの仲間、常緑のアオキやイヌツゲを食べていたはずですが、フンの様子からは新芽や若葉を食べ始めたようです。

島の入口付近を真鍋さん、新井さんとよく観察してみると、ヤマユリと思われる芽が先端部分をほとんど食べられてしまっていました。ここ 3 年ほど、島内ではヤマユリの花が観察されていないそうです。新芽の食痕の様子から、その原因のひとつはシカによる食害と考えられます。シカは思った以上に島の植生に影響を与えている可能性があります。もしかすると、82 種の未確認種中いくつかは、シカの食害によりすでに島内では絶滅してしまった可能性もあります。豊英島の生物多様性とシカの関係は今後どうなっていくのでしょうか。

芽吹き季節を迎えた豊英島を歩きながらふと考えてしまいました。